

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と考察、ならびに今後の本校の取組みについて

4月18日(火)に全国の中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本校の概要や今後の取組をお知らせします。

丹波市立柏原中学校

学力調査の結果と考察

【国語】…全国の平均正答率と同程度

- 成果 文章を比較して表現の効果について考える問題や、情報と情報との相互関係について考える問題、文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付ける問題の正答率が高かった。また、文脈に即した漢字の読み書き、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、繰り返し文章を読む学習や、定期的な漢字テストを実施した成果が表れている。
- 課題 目的や場面に応じて質問する内容を検討する問題や、意見と根拠の関係を明確にする問題に課題が見られた。また、事象や行為、心情を表す語句など言語事項に関しても正答率が低い問題もあった。

【数学】…全国の平均正答率と同程度

- 成果 箱ひげ図を使って複数のデータを比較し、分析結果を記述する問題や、度数分布表を使って累積度数を求める問題などの「データの活用」領域の問題について、理解できている生徒の割合が多く問題の正答率が比較的高かった。この分野は昨年度の課題になっていた分野であり、その反省から学習時にタブレット端末を利用したり、表やグラフに触れたりする機会を増やした成果と言える。
- 課題 正負の計算や文字式の計算などの「数と式」領域について、基礎知識の定着に課題が見られた。また、図形の分野についても昨年度同様に課題が見られる問題があった。

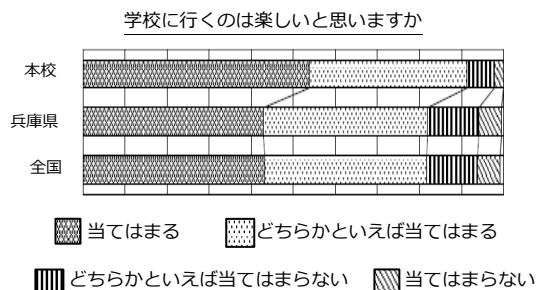
【英語】…全国の平均正答率よりやや低い

- 成果 日常的な問題について自分の置かれた状況などから必要な情報を聞き取る「聞くこと」の問題やメールの英文を用いて、依頼する表現を正確に書くという「書くこと」の問題の正答率が高かった。また、知識・技能の観点の問題は正答率が比較的高く、新しい表現や単語が少しずつ習得できている。
- 課題 日常的な問題について自分の置かれた状況などから必要な情報を読み取る「読むこと」の問題に課題が見られた。また、「書くこと」の問題のなかにも正答率が低いものもあり、課題が見られた。話すことや書くことで表現する場面を増やし、苦手克服の機会多く作ることが今後の課題である。

質問紙調査の結果より

【成果】

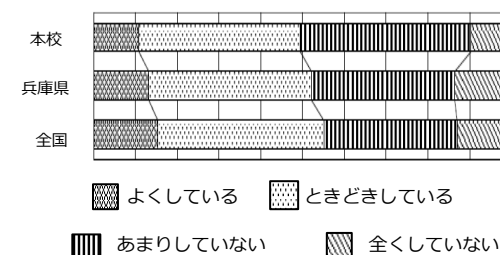
「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、「当てはまる」が53.8%、そして「どちらかといえば当てはまる」との肯定的回答は91.4%である。昨年度と同じアンケート項目の結果より、22.1%増加している。(1学期の生徒アンケートの中で、1・2年生も約90%が肯定的に回答している) また、「友達関係に満足していますか」の問いに対しても、今年度は92.4%が肯定的な回答をしている。これはコロナ禍を乗り越え、学校生活が安定してきているためであると思われる。ただし、「楽しくない」と回答している生徒が数%いることも忘れず、きめ細やかに生徒の学校生活を支援していく必要がある。



【課題】

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに、「よくしている」と答えたのは10.8%であり「ときどきしている」とあわせると49.5%であった。また、「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに、「2時間以上」と答えたのが31.2%であった。(全国は40.0%) このことより、勉強は学校の学習で完結している生徒が多く、家で計画を立てて学習に取り組めていない。これは昨年度と同じ傾向で、引き続き家庭学習が定着していないといえる。「将来の夢や目標を持っているか」の問いに対して肯定的な回答は61.3%であったので、将来の夢や目標をもって、自分で計画を立てて学習する力を育みたい。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



今後の本校の取組みについて

- 基礎学力の定着に向けて、漢字テストを今後も継続するとともに、文法事項や言語事項全般にかかる小テストにも取り組む。また、多くの数学的分野の基礎となる正負の計算や、文字を含んだ四則については、反復練習(ドリル)をする時間をしっかり取る。
- 生徒が主体的に学び合う授業を推進するため、さまざまな場面でペアワークや小グループ学習の機会を設け、伝えあい、話し合ったうえで、自信を持ってそれをうまくまとめて表現できる能力を高めていく。また、授業の中で自分の言葉で説明する場面を作り、論理的に説明できる能力を高めることができるようにする。
- 英語科においては、「あるテーマに沿って自由に会話する」、「自分が興味のあることについて自分の意見を人に伝える」、という自己表現の機会を増やすことを大切にしていく。また、文法事項を正しく理解し、それを自分の言葉で表現できるように、教室の雰囲気づくりや一人ひとりの意欲向上につながる授業を行う。
- どの教科も、普段の生活や、将来、社会に出たときに役に立つ事例を授業の中で提示することを教師が意識し、その教科を学習することの大切さを伝えていく。
- すべての教科で、ICT機器を効果的に授業の中に取り入れる。
- 授業のユニバーサルデザイン化を継続することで、生徒全員が参加できる授業づくりを推進し、授業終盤での「振り返り」を大切にす。
- 家庭学習の定着を目指し、自ら計画を立てて復習や問題演習などに取り組めるよう意識を高めていく。
- キャリア教育を推進することで自己肯定感や自己有用感の醸成を図り、夢や目標を持って努力できる自立した生徒の育成を目指す。
- 生徒ができないときのアドバイスだけでなく、頑張っている過程やできたときに褒める「評価言」をタイミングよく、分かりやすく生徒に伝える。(具体的には、取り組んでいる過程で「頑張っているね」や行動に感謝する「ありがとう」の言葉かけをする)



『 ころ豊かで、自立する生徒の育成 』
 ~ 学び合い、支え合い、鍛え合う柏中生 ~